

専門分野

科目名	精神看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1.精神看護学の対象について概観を理解する。 2.精神医療保健福祉の現状及び歴史を踏まえ対象を取り囲む社会情勢を理解する。			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	精神看護学で学ぶこと・トピックス(当事者研究、オープンダイアログ)	講義		
2	精神の健康	講義		
3	精神医療保健福祉の現状	講義		
4	精神医療保健福祉の歴史	講義		
5	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき、心のはたらきと人格の発達	講義・グループワーク		
6	関係のなかの人間 システムとしての人間関係、全体としての家族、人間と集団	講義・グループワーク		
7	ケアの人間関係 ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、チームダイナミクス	講義・グループワーク		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論Ⅰ こころの健康と精神疾患の理解	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1.心の健康、現代社会における心の健康について理解する。 2.ライフサイクルとストレスについて理解する。 3.精神疾患とその症状、治療について理解する。			
DPとの関連性	1.豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2.自己を客観的に見つめ内省することができる。 4.安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5.その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6.医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7.変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8.看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	精神保健の考え方 心の機能と発達	講義		
2	「心のケア」と日本社会、ストレスとコーピング	講義		
3	家族への看護	講義		
4	安全を守る 自殺、自殺企図、自傷行為とその予防	講義		
5	地域保健活動、学校職場におけるメンタルヘルス	講義		
6	社会のなかの精神障がい、精神障がいと治療の歴史	講義		
7	精神科疾患のあらわれ方、治療① 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	講義		
8	精神科疾患のあらわれ方、治療② 気分＜感情＞障害	講義		
9	精神科疾患のあらわれ方、治療③ 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	講義		
10	精神科疾患のあらわれ方、治療④ 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群	講義		
11	精神科疾患のあらわれ方、治療⑤ パーソナリティ障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	講義		
12	精神科疾患のあらわれ方、治療⑥ 習慣及び衝動の障害、知的障害	講義		
13	精神科疾患のあらわれ方、治療⑦ 性同一性障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害	講義		
14	精神科疾患のあらわれ方、治療⑧ 症状性を含む気質精神障害	講義		
15	災害時のメンタルヘルス、PFA	講義		
評価方法	筆記試験 こころの健康 50% 疾患理解 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は保健師・医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論Ⅱ 精神に障がいのある対象の特徴と看護	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	30
担当教員	非常勤講師・専任教員			
科目目標	1.精神に障がいのある対象の看護を考えるために必要な考え方・方法を理解する。 2.事例を用いた看護過程を通して、精神に障がいのある対象の全体を捉える基礎的方法を理解する。			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	生きる力と強さに着目した援助 レジリエンス・リカバリ・ストレングス	講義		
2	患者の権利擁護<アドボカシー>、暴力予防	講義		
3	セルフケアへの援助 オレム・アンダーウッドモデル	講義		
4	精神の健康とマネジメント 患者と家族の看護、リエゾン看護	講義		
5	援助関係の構築、信頼関係の基礎作り	講義		
6	家族への看護 社会復帰・社会参加への支援	講義		
7	精神科病院での看護の実際	講義		
8	精神看護過程の基本	講義		
9	精神看護過程の展開方法	講義		
10	事例を用いたグループワーク①	グループワーク		
11	事例を用いたグループワーク②	グループワーク		
12	事例を用いたグループワーク③	グループワーク		
13	事例を用いたグループワーク④	グループワーク		
14	グループ発表・共有	グループワーク		
15	筆記試験 2 回			
評価方法	精神看護の実際 50% 看護過程 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	精神看護援助論Ⅲ 精神保健医療福祉サービスと生活支援の実際	開講時期	単位数	時間数
		3 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師・専任教員			
科目目標	1.精神に障がいのある対象の生活について考えることができる。 2.精神に障がいのある対象の力や、地域での生活を継続するための工夫について知ることができる。 3.精神に障がいのある対象を取り巻く社会資源及びサービスの実際を理解することができる。 4.地域におけるケアと支援の実際と役割を知ることができる。			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる。 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる。 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容		授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと 精神看護の課題		講義	
2	社会のなかの精神障がい① 精神障がいと社会学		講義	
3	社会のなかの精神障がい② 精神障がいと法制度		講義	
4	社会のなかの精神障がい③ おもな精神保健医療福祉対策とその動向		講義	
5	地域におけるケアと支援① 地域における生活支援の方法		講義	
6	地域におけるケアと支援② 地域におけるケアの方法と実際①		講義	
7	地域におけるケアと支援③ 地域におけるケアの方法と実際②当事者の体験談		講義	
8	地域における精神障がい者が利用できる社会資源 障害者総合支援法、精神保健福祉法に基づく社会資源		講義	
9.10	施設見学(9:00-12:00) 就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型		施設見学	
11.12	施設見学(13:00-16:00) 地域活動支援センター、デイケア、グループホーム		施設見学	
13	施設見学で学んだ内容の学びのまとめ		グループワーク	
14.15	グループ発表・共有		グループワーク 講義	
評価方法	レポート サービスの実際 50% 生活支援の実際 50%を総合して評価する			
教科書	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院			
実務経験	本科目は精神保健福祉士・保健師として実務経験のある教員による授業である			